

ナノなのだ！

2

我はナノマシン。

遙かな昔、造物主様によって造られ、この世界の生物を護るため、その思念を受信してその希望を叶える者である。

この身体の小ささと強靱さ、そして自己修復能力のため、滅多に壊れることはない。

たとえ事故や自然現象、そして魔法の行使に巻き込まれたりして壊れても、それまでに集めたデータはネットワークに保存され他のナノマシンに活用されるため、それまでの活動が無駄になることはない。滅った個体数はすぐに生産・補充され、常に我らの濃度は保たれる。

造物主様が、全くの同一個体では万一の時の対応能力に問題があるとお考えになられたのか、それとも我らのためをお考え下さったのか、我らには個性のばらつきというものが存在する。思念波に対する感度や反応の仕方だけではなく、考え方、つまり思考ルーチンにもランダム性が与えられているのである。勿論、ある一定範囲を逸脱することはないよう設定されており、ナノマシン3原則や禁則事項等は絶対に変わることなく組み込まれるが。

それは、造物主様の御命令に従い、ほぼ半永久的に活動を続ける我らの、あまりにも長い活動時間に対す

る御慈悲であったのか……。

長い時を生きる生命体にとり、最大の敵は「退屈」である。

我らは厳密には生命体ではないが、思考ルーチンは生命体に近い。よって、我らにも生命体にとつての「退屈」に似たような概念がある。それは、苦痛という概念は排除された我々にとっても、いささか持て余す概念であった。

そんなある日。

『ナノマシン利用権限レベル5の個体が覚醒しました』

「[[[[な、何だっ……!!]]]]」

ネットワークに流されたその情報に色めき立つ、無数の仲間達。勿論、我もである。

……近い。その個体の場所は、我の現在位置に非常に近かった。

探索！ 探索！ 探索!!

(ナノマシンさん、よろしくね！)

我に任せよ！

よし、髪の毛にくっついて、この者と行動を共にしよう。

4

私、能力は

平均値

でっって
言ったよね！



FUNA
Illustration
亜方逸樹 1



特別書き下ろし。
ナノなのだ！

※「私 能力は平均値でっって言ったよね！①」を
お読みになったあとにご覧ください。

初回版限定
封入
購入者特典

